

2021年度 情報理工学域入学者選抜における英語民間試験活用について

令和元年11月1日に文部科学大臣から「大学入試英語成績提供システム」の導入の見送りが発表されました。

本学ではこの発表を受けて、現在公表している2021年度情報理工学域入学者選抜の英語民間試験活用について検討した結果、次のとおり決定しましたので、お知らせします。

《情報理工学域 I類（情報系）、II類（融合系）、III類（理工系）》

1. 一般選抜 [現在の名称：一般入試]  
英語民間試験は活用せず、出願資格としていた「CEFR対照表A2以上」を課すことも行いません。
2. 学校推薦型選抜 [現在の名称：推薦入試]  
英語民間試験は活用せず、活用方法とした「得点加算」も行いません。
3. 総合型選抜 [新しく導入する入学者選抜]  
英語民間試験は活用せず、活用方法とした「得点加算」も行いません。
4. 帰国子女選抜 [現在の名称：帰国子女入試]  
英語民間試験は活用しません。
5. 私費外国人留学生選抜 [現在の名称：私費外国人留学生入試]  
現行の入学者選抜で出願要件としている「TOEIC」及び「TOEFL」の受検及び成績提出は、従来どおり課します。  
なお、新たに出願要件として基準点を設けます。  
TOEFL 453点以上 (PBT) 46点以上 (iBT)  
TOEIC 450点以上 (L&R)

《情報理工学域 先端工学基礎課程》

- ・総合型選抜（夜間主課程） [現在の名称：AO入試]  
英語民間試験は活用しません。